

8.利用者数から見る子ども食堂

篠田和香奈

1.はじめに

近年、子ども食堂はメディアなどでも注目され、年々数を増やしている。子ども食堂とは、地域住民や自治体が主体となって無料または低料金で子どもたちに食事を提供するコミュニティの場を指す。子ども食堂といっても決まった形はなく、貧困・孤食対策、第3の居場所作り、地域のコミュニティの形成など、活動目的がそれぞれの子ども食堂によって違うため、対象者や開催頻度、活動内容などは運営者によって異なり様々な形態で運営されている。

本稿は、愛知県内の子ども食堂にアンケート調査、聞き取り調査を行い、その結果から、利用者が集まらず、存続することを悩んでいる子ども食堂、利用者が全く来ないので、やめてしまった子ども食堂、反対に利用者が来すぎて食事が用意しきれないことで悩んでいる子ども食堂があることを知った。このことから、利用者が多い子ども食堂と利用者の少ない子ども食堂の違いを明らかにし、これをふまえて子ども食堂の適正な規模を考察する。

○調査目的

利用者が多い子ども食堂と利用者の少ない子ども食堂の違いを明らかにし、これをふまえて子ども食堂の適正な規模を考察することで、子ども食堂に興味を持っている人、今後子ども食堂を開きたいと思っている人、現在子ども食堂を運営している人に役立てる。

○研究方法

①参加目的

②もっと充実させてほしいこと

以上の2点を利用者アンケート、子ども用アンケートから分析する

③利用者数

④スタッフの数が足りているか

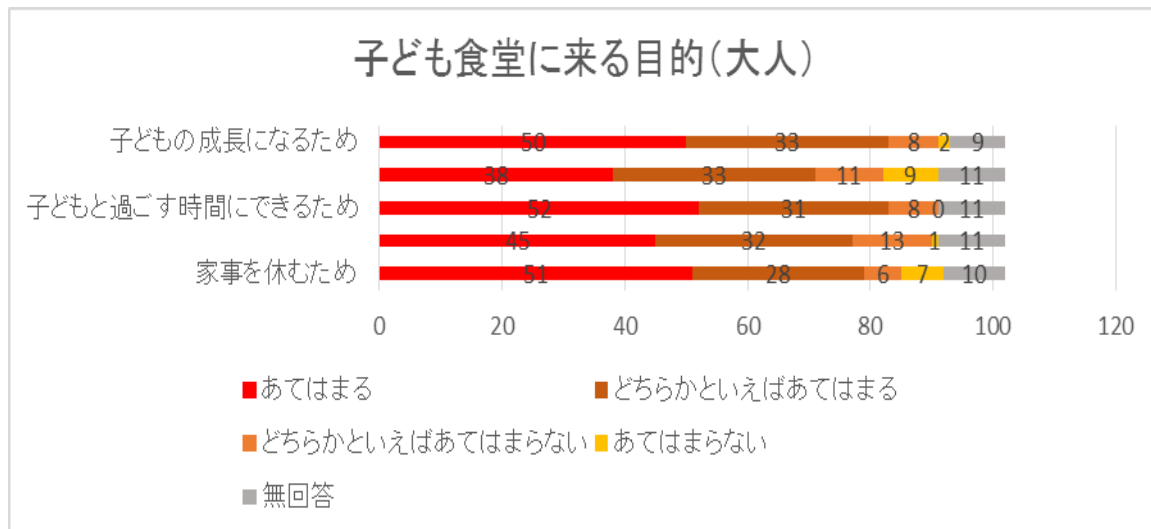
⑤活動内容

以上の3点を分析し、利用者の参加目的を満たすための子ども食堂の適正な規模を考察する。

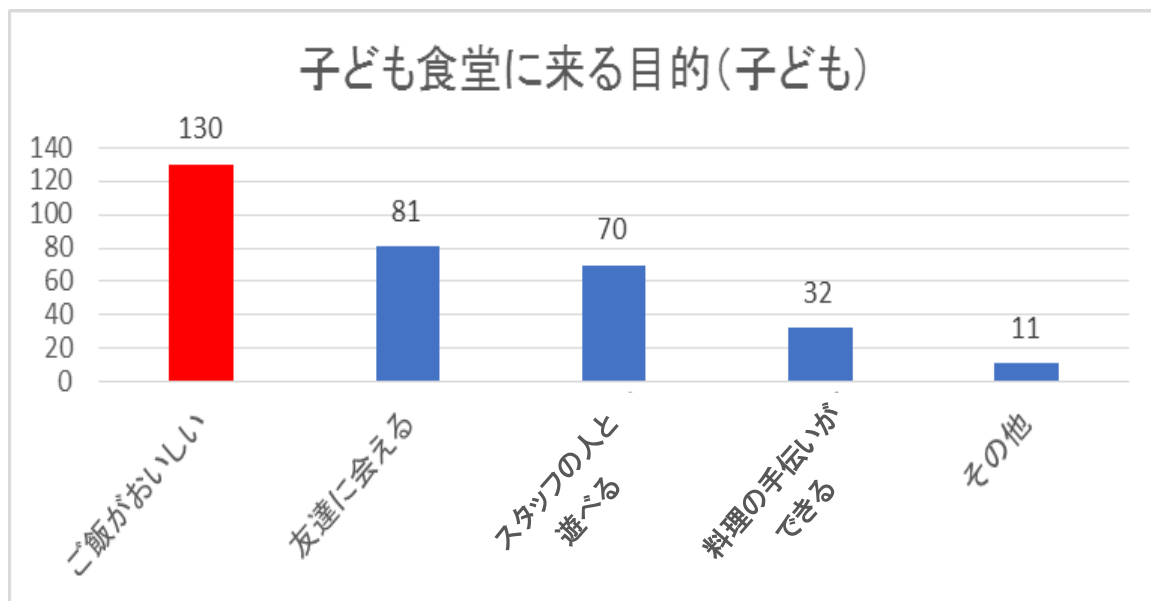
2. 本論

①参加目的

大人

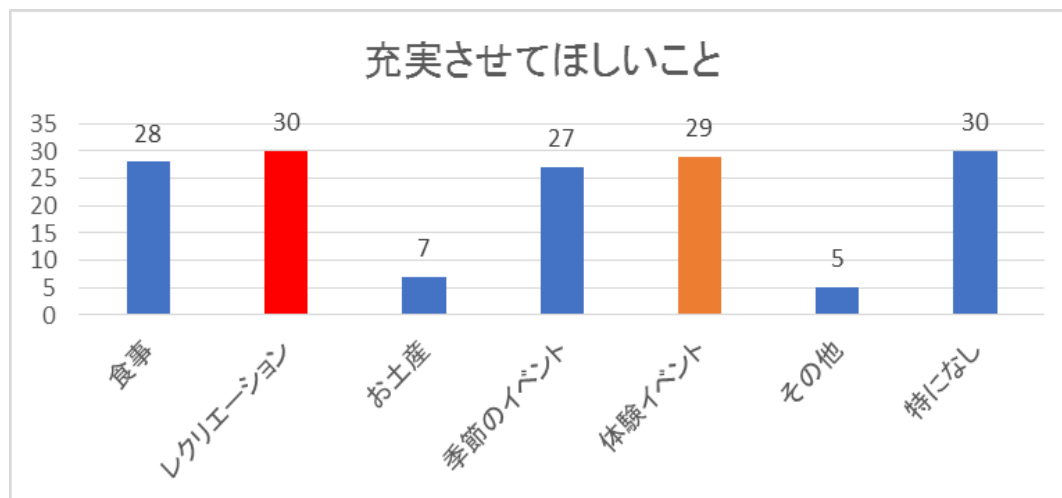


子ども



以上の結果から大人の利用者は子どもの成長のため、子どもと一緒に過ごす時間を過ごすため、家事を休むため、などの理由で来ている人が多く、子どもはご飯がおいしいからという理由が1番多く、次いで友達に会える、スタッフとの交流、などを目的に来ている人が多いことが分かった。

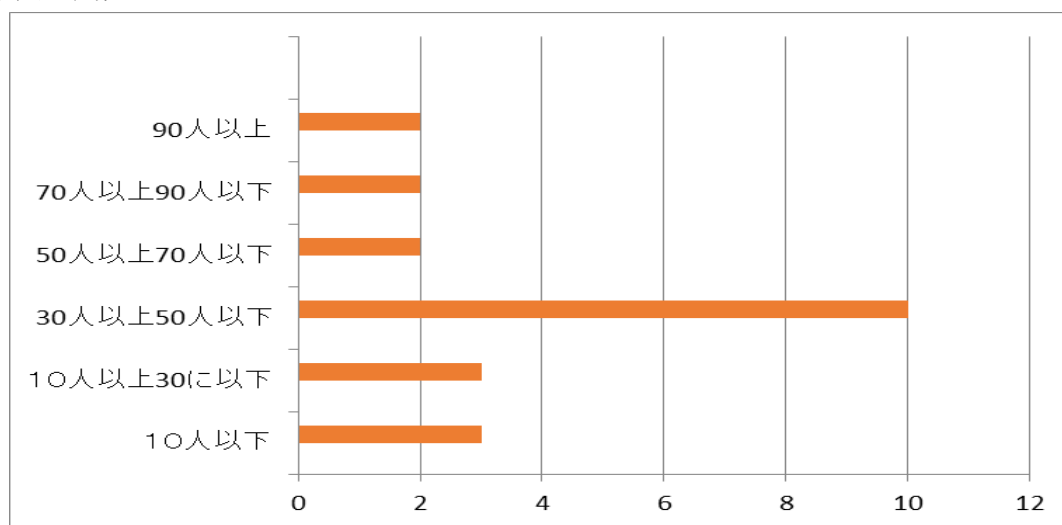
②もっと充実させてほしいこと



充実させてほしいことは、レクリエーション、季節のイベント、体験イベントを充実させてほしいと思っている人が多かった。

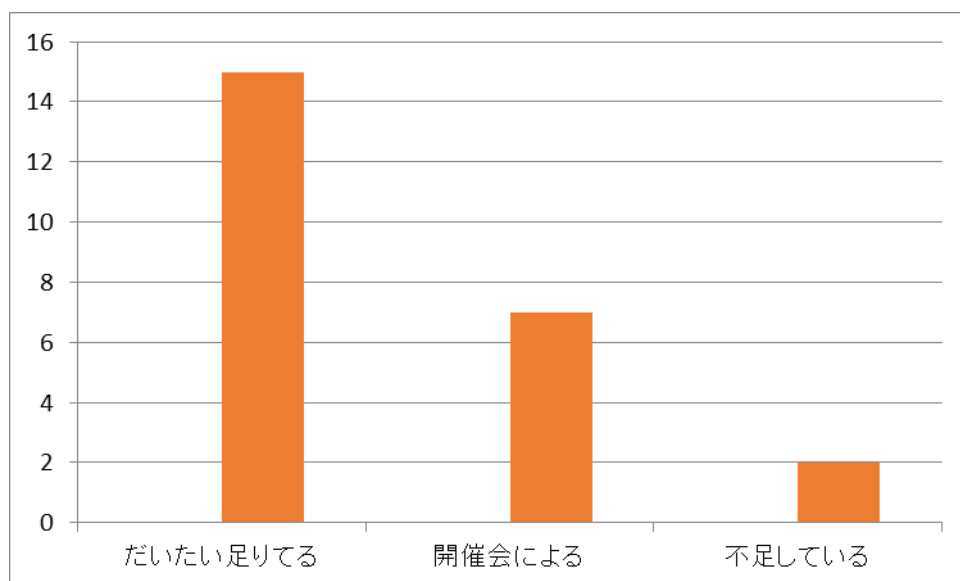
以上の結果から、利用者は食事だけでなく、子どもと触れ合え、子どもの成長に繋がるような体験イベントやレクリエーションを求めている人が多いということが分かった。

③利用者数



利用者数は30人以上の子ども食堂がほとんどである。

④スタッフの数が足りているか



スタッフの数はだいたい足りていると感じている子ども食堂が多かったが、開催会による、不足していると感じている子ども食堂も訳4割いた。

以上の結果から、30人以上を受け入れ、子どもの成長につながる体験イベントを実施するとなるとある程度の大きさの場所と、利用者数に見合ったスタッフの数が必要であると感じた。

3. 結論

調査の結果から、利用者は食事だけでなく、スタッフとのコミュニケーションであったり、親子の触れ合いを求めていることが分かった。利用者が多すぎると、どうしてもスタッフが利用者一人一人とコミュニケーションを取ることは難しい。食事のみの提供になってしまったり、安全対策が不十分になってしまう。このようなことから、子ども食堂が利用者の目的を満たすためには、開催場所やスタッフの数に応じた利用者数が望ましく、場所によっては対象者を定める必要もあるのかもしれないと感じた。